The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	A Sense of Harmony～価値あるもののために
Author(s)	小林, 和之
Citation	大阪大学, 2000, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/41951
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【4】

氏　　名	小林和之（こばやし かずゆき）
博士の専攻分野の名称	博　士（法　学）
学位記番号	第　15127　号
学位授与年月日	平成12年3月24日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 法学研究科公法学専攻
学位論文名	A Sense of Harmony～価値あるもののために
論文審査委員	（主査） 教　授　松浦　好治 （副査） 教　授　田中　茂樹　　教　授　三成　賢次

論文内容の要旨

この論文は、価値を扱うテクノロジーの基礎理論である。現実にある問題を処理するに当たっては、価値の多元性を適切に取り扱う必要がある。価値体系の間で優劣を一義的に決定することが不可能であるという意味で価値相対主義が正しいとしても、それでは問題は処理できない。特定の実質的価値体系に依拠することなく、問題を処理するメタ価値的システムを設計することが、この論文の目的である。そのシステムの要となるのがパレート優位と選択の自由である。

メタ価値及び価値の問題は、事実の問題とは違うアプローチが可能であるとともに有益であり、そのことを論じているのが「虚構の人格」と「白いブラックボックス」の章である。この2つの章では、規範構成の自由とその原理としてのコスト（マイナスの価値）の最小化について論じている。

コストを最小化するためには、価値の評価が必要である。市場が利用できる場合には金銭による評価が可能であるが、重要な価値は市場で扱うことができない。しかし、重要な価値が関わる問題が現に存在している以上、それを処理しなければならない。その手段が順序づけである。「不合理な選択としての死刑」「生命に対するリスクと刑罰システム」の2章においては、生命の基底性・相対性を論じている。

もっとも重要な価値が生命であるなら、コストを最小化するためには、生命の喪失を最小化しなければならない。「未来は値するか」「愛でなく」の2章では、グローバルレベルで生命の喪失を最小化するシステム「逆しまの箱船」を設計した。ここでは、環境問題という極限にマクロな問題を、個人の選択というミクロの問題に還元して処理している。

論文審査の結果の要旨

本論文は、法のような規範的枠組みを使って人類・社会の将来を設計しようとする場合に、原則として考慮されるべき項目を特定し、それによって一種の制度設計の「仕様書」を提示しようとするものである。論文は、人々が多様な価値観をもっていること、いかなる制度にも制度が誤作動するリスクが伴うこと、コストやパレート改善というような道具が必要なことを主張し、制度の仕様書がどのような形で現実問題の中で機能するか、あるいは機能する可能

性を持つかを論じている。ただし、パレート改善その他の概念は、経済学からの直輸入ではなく、規範的世界に適用するために慎重な検討が加えられ、加工されている。

検討の素材として使用されているのは、脳死、臓器移植、死刑、環境問題などの重要な社会的問題である。これらの素材は、請求者が医科大学における講師を務める中で医学生との対話の中で検討を進めてきたものであり、その結果、論文の議論は、十分に具体的に展開されている。

論文の主張がもっとも明瞭にしかも説得的に主張されているのは、第6章「未来は値するか」であり、環境問題は、どのようにして地球を使い捨てるかという問題に他ならないという問題設定に始まって、子供税を含めた幅広い論点を興味深く論じている。

学位請求者の研究は、いわゆる法的価値論の分野において、ユニークな思考に基づいて緻密な考察を行った成果であり、高く評価されるべきものであり、独立した研究者としての能力のあることを十分に示すものと判断される。